

市原認知症対策連絡協議会 第21回 例会議事録

日時 令和2年1月23日(木) 18時30分～21時00分

場所 市原市民会館 会議室棟3階 大会議室

参加者 45名

1. 永野先生よりご挨拶

2. ミニ講演会

『障害者支援及び障害者就労支援』 社会福祉法人佑啓会

ふる里学舎地域生活支援センター（障害者就業・生活支援センター） 本郷 宏治氏
障害というのは終わりのない病と言われている。

障害者就業・生活支援センター（通称：なかぼつセンター）、障害者支援制度説明
障害者就労支援は、就労斡旋、就労定着のほか、企業側の導入、定着、職員が若年性
認知症になった場合、どのように継続して就労してもらうか、どのように退職して
もらうか等の辞めてもらいたい場合の相談にもものっている。

3. プロジェクトチーム別検討会

下記の各チームに分かれて現状報告、今後の活動等について話し合いを行なう。

詳細は別紙参照。

- A 若年性認知症対策プロジェクト
- B 認知症サポーターの活動推進プロジェクト
- C 在宅介護者を支えるマニュアル作成プロジェクト
- D 服薬支援ネットワークプロジェクト
- E 新規プロジェクト検討プロジェクト
- F フェスタプロジェクト
- G RUN伴プロジェクト
- H ステッカープロジェクト（参加者無）

4. 交流グループワーク 「情報連携（災害時）」をテーマに意見交換、情報共有を行なう。

それぞれのグループより発表

○停電時、連絡方法がない。→ 市が無線で町会長と連絡を取り町内で取りまとめてもらう。（最後は地元！）

『私は元気！』カードの活用。

○直接訪問するしか方法がなかった。包括は看護師さんと一緒に回って安心だった。

- 被災直後は大丈夫だった方々も、数か月後にはレベルが落ちていた。
- 特養のネットワークはあるが、老健にはないのでネットワーク構築が必要。
- 地域包括支援センター同士の連携をとり、顔が見える通信手段を活用する。地域包括支援センター長が市役所へ出向く等の決め事が必要である。
- バックアップ体制が大切である。千葉市との連携も必要である。
- トランシーバーは使い方がわからなかった。日頃から確認しておくべき。アナログ電話は使用可能だった。
- 高齢協のグループLINEがあるが、情報が氾濫してしまった。
- 福祉避難所の利用方法について 一般の避難所を経て福祉避難所へ回るので時間がかかる。
- 非常時のデイサービス利用について 回数制限や定員オーバー等、特例で対応すべきではないか。